



にしじ

就任のご挨拶 P2~7

副院長兼栄養局長 福井 康雄	P2
副院長兼地域医療センター長兼医療安全管理センター長 小野 憲昭	P3
副院長兼総合周産期母子医療センター長 林 和俊	P4
医療局長 山本 克人	P5
医療技術局長 谷内 亮水	P6
薬剤局長 田中 聡	P7
高知医療センター イベント情報	P8

6

JUNE 2018 Vol.152



患者搬送車が新しくなりました！

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



副院長兼栄養局長

福井 康雄

Yasuo Fukui

平成30年4月1日付けで副院長・栄養局長を拝命いたしました福井康雄です。この度の副院長兼栄養局長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

私は昭和35年高知市に生まれ、高校卒業まで市内で生活しておりました。小さいころ、夏休みには朝倉・鴨部の鏡川で泳いでおりましたし、時には上町5丁目付近で川泳ぎした記憶もあります。(一度流されておぼれかけました。)又、中学高校は鏡川の堤防を自転車で通学しておりましたので、その中で四季の移り変わりを感じていました。

その後進学した大学では6年間学生寮で生活しました。その頃の学生寮では新入寮生の義務として、先輩寮生に対して自己紹介した上で入寮を許可してもらうというしきたりがありました。それは現在の就職面接に相当するものであって、「自分はどんな人間であるか」「なぜ大学に進学したのか」といった事を掘り下げて整理し説明する経験となりました。さらに学生寮では自主的な行事(阿波踊りへの参加など)を企画・実行する機会があり、寝食を共にした先輩・同期・後輩との交流は自分の人間形成に大いに役立ったと思います。

卒業後は大学の外科教室に入り研修をスタートしました。外科医を目指すことにことさら強い動機があったわけではありませんが、やはり家族の病気を経験したことが最終的な決め手となりました。1年目の外科研修はとても忙しかったため、その年に流行した歌やテレビの記憶はほとんどありません。それでも未知の世界に触れ、未熟ながらも治療に貢献して患者さんから感謝されたことは大きな喜びとなりました。2年目以降は医局派遣で高知農協総合病院(現JA高知病院)、土佐市民病院で外科診療の指導を受けました。先輩外科医が的確に手術を遂行する姿を見て、少しでも早く追いつきたいと考えていた日々でした。

その後、一旦大学病院・医局に帰り後輩の指導と医学研究を行いました。さらに徳島県・香川県での病院勤務の後に中村市民病院(現四万十市民病院)を

経て高知市民病院へ異動しました。

高知市民病院に替わった時期にはある程度外科の経験を積んでおりましたので、病院内での役割として初めて院内感染対策の仕事に関わりました。その当時は感染対策チームがなかったため活動はメンバー一人選・組織作りから手探り状態で始めました。外科診療もそうですが、感染対策もチームで対応すべきものでありその後も多職種スタッフからサポートを受けました。本当に感謝しております。高知医療センター開院後も感染対策業務を続け、アウトブレイクや新型インフルエンザ対応などを経験しました。問題点を抽出し評価した上で対応策を検討する事例を経験し、一定の方法が確立したように思います。ただし、副院長就任後は感染対策業務から離れ、対策は後任の西内医師に託します。今後は別の視点から援助したいと考えております。

4月からは新しい役割として栄養局長・ベッドコントロール・医療機器整備を担当いたします。前任の先生方の業績を引き継ぎ発展させていく所存です。これまでの経験をもとに自分なりのやり方を加えていければと考えております。

高知医療センターには県内有数の設備・医療機器・スタッフが揃っています。高知県の医療をひとつの機械に例えると、当院は不可欠のエンジンであり歯車と言えます。ただし、高知医療センターという大きくてとても重い歯車を回すためには、そこにつながっている一人一人の歯車がうまく回っていかなくてはなりません。それぞれの仕事を歯車としてとらえることにはネガティブなイメージもありますが、仕事にそういった側面があることは否定できません。これまでの経験を活かし、一つひとつの歯車から大きな歯車がきちんと回るように努めてまいりたいと思います。

まだまだ未熟でございますが、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

副院長兼地域医療センター長
兼医療安全管理センター長

小野 憲昭

Noriaki Ono



—「熟慮・祈念・放下・断行」していきます—

2018年4月1日付けで、副院長 兼 地域医療センター長 兼 医療安全管理センター長を拝命いたしました。昨年来お世話になっております地域医療センター長としての仕事も、引き続き担当させていただきます。4月になり当院は島田安博 新病院長のもと、新たにスタートしました。このタイミングで、副院長のひとりにさせていただきましたので、ひとことご挨拶させていただきます。

私は、愛媛県新居浜市出身で、幼稚園から高校までの14年間を松山で過ごし、1979年に岡山大学へ入学、1985年に卒業し泌尿器科学教室へ入局いたしました。2000年、現在の高知医療センターが開院する前の「統合病院」構想の時期に、岡山大学泌尿器科前教授の公文裕巳先生より、高知への赴任を命じられ、はじめて高知に参りました。以来18年間にわたり、高知県立中央病院→高知中央病院→高知医療センターで勤務しております。泌尿器科診療を通じて、ここ10年で患者の高齢化に関連して医療がどんどんと変化していることを痛感しますし、また救急診療などでは、複数の疾患を持つ高齢化した患者への対応は、その医療の目的自体が変化しているように思います。この時代の自治体病院での病院運営は、そうとう難しいものということであろうと思いますが、この点ではまだまだ不勉強でありますので今後さらに勉強を続け、他の副院長と共に島田病院長をサポートしてまいりたいと思います。

高知医療センターとの医療連携におきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。2005年3月の高知医療センター開院当初から設けられております「地域医療センター」では、これまで13年間余り、地域の先生方との連携に努めてまいりました。おかげさまで、各地域医療機関との迅速で円滑な連携を構築できておりますこと、あらためて御礼申し上げます。今後、「地域医療構想」の中で地域包括ケアシステムを構築し、医療機関や介護分野との連携をいっそう強化していくことが求められており、さらに厳しい対応が必要です。当院で治療を完結させるのではなく、地域として完結させることを目標に、私たちは、地域の

先生方からご紹介いただく患者さんに急性期の医療ならびに手術を適切に行い、再び地域の先生方に逆紹介させていただいて、患者さんが早く元どおりの健康な生活を過ごせるようになることが一番大切と考え「患者さんファースト」の姿勢で努力してまいります。また、この春の診療報酬改定にもありますが、超急性期・急性期の疾患を診るという、当院に課せられた病院機能を考えた時、積極的な治療を行った後の診療やリハビリテーションは、地域の医療機関との強い連携のもとに、早期から診療・治療を依頼する方向でお願いしてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。先生方から安心してご紹介いただける、信頼できる病院となれますよう、また患者さんの治療が進めばあらためて先生方に安心して逆紹介を受けていただける病院となれますよう、努力し「顔の見える、開かれた」地域医療センターを目指します。

医療安全管理センターでは、昨年までいくつかのアクシデントもありました当院で、インシデントを含め、これらの事例の十分な解析を行うとともに、新しく当院へ入職してきた各職種のスタッフも含めた職員皆へ、さらなる十分な指導を行っていく必要性、十分な配慮をしていく必要を感じております。「医療の主人公である患者さん」に、安心して安全な医療を受けていただけますよう、具体的にはインシデント・アクシデントをできるだけおこさぬよう、皆での学習を進めてまいります。これらには、話しやすい、相談しやすい雰囲気作りも大事と考えております。

このような責任ある立場での仕事に携わらせていただくようになったことにあたり、岡山大学泌尿器科の私の上司、現教授 那須保友先生から、重圧や気負いもあるだろうけれど「熟慮、祈念、放下、断行」につとめなさい、というお言葉をいただきました。私の生まれ故郷であります愛媛県新居浜市にかつてありました別子銅山を経営した「住友」。その「住友精神の神様」といわれ、実際に別子銅山での問題を解決した伊庭貞剛の言葉だそうです。「熟慮」「断行」だけでなく、その間に「祈念」「放下」して事にあたらせ、との言葉を肝に銘じ、努力してまいります。

今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。



副院長兼総合周産期母子医療センター長

林 和俊

Kazutoshi Hayashi

平成30年4月1日より、副院長を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私は高知県四万十市出身(中村高校卒業)で、旧高知医科大学を卒業後、平成元年に相良祐輔教授(元高知大学学長)が主宰される産科婦人科学教室に入局いたしました。大学では生殖内分泌、不妊を担当し、深谷孝夫前教授には、腹腔鏡手術をご指導いただきました。その後、県外の病院、県立安芸病院などで勤務の後、平成20年7月に高知大学産科婦人科から当院に赴任いたしました。赴任後は母性診療部長(兼産科長)を、平成26年からは総合周産期母子医療センター長(同)を拝命し、今日に至りました。島田病院長からは当院の診療全般に関心を持ちながら、教育・研究、災害対応を進めるよう、ご指示いただいておりますので、関係各署の皆さま方、どうかよろしくお願い申し上げます。

私はこれまで、小児科、小児外科、他多くの科の先生方、スタッフの皆さま方に助けていただきながら、一貫して産科および婦人科の診療に邁進して参りました。その間、本県の少子化が進む中、当院の産科症例数はハイリスク症例を主体に年々増加。また、産科のみならず、婦人科良性・悪性疾患に対応する産婦人科医は減少するという現実にも直面しました。このような悪い状況の中でも、医療の質、安全性は守らなければなりません。どの診療科もそうだと思いますが、状況改善策のベストは人員増加です。ところがそのような夢のような話は進みません。そこで、ここ数年間、当院産婦人科で取り組んできたことは、チーム医療とシミュレーション教育の研修です。すなわち、チームSTEPPSやALSO(Advanced Life Support in Obstetrics)です。これらが最低限の人員でも最大限にチーム力を発揮する最善のツールであり、特にチームSTEPPSの考え方は全職種共通で「腑に落ちる」ものだと思います。いずれにも共通する重要なポイントはスタッフ間の双方向性コミュニケーションだと考えています。これまでは周産期医療関係者を対象に2回にわたり、研修会を開催しましたが、今年度からは、高知

医療センター全体で取り組むチーム医療の研修会として提案させていただきます。必ずや当院の医療にはプラスになることと思いますので、どうかご期待ください。

さて、2025年問題に先立つ、平成30年度の診療報酬改定に伴って、高知県の医療情勢も大きく変化いたします。まさに激動の時代です。この嵐を乗り切るためには、これからは医療に関わる一人ひとりが経営の視点を持つておく必要があるようです。当院の役割を果たしながら、健全な経営基盤を維持し、効率良く、質の高い医療を提供するにはどうすべきかを職員全員で追求していかねばなりません。良い医療を施すには人、モノ、技術、心が必要ですがそのためには公的病院として安定した収益も重要です。高度急性期・急性期病院である当院に対する県民、市民の期待に沿うためには、錦の御旗を掲げたように「患者さんのためだ」と主張する医療が、実は「(当院での医療を受ける必要のある)患者さんのためにはならない」医療になっているかもしれません。県全体を考えると高知家の医療チームとして医療施設が役割分担、連携を明確にし、それぞれに求められる医療機能を果たす必要があります。これまで私自身、経営を度外視し、自分の時間を潰し、患者さんのためだと働いてきた自負がありますが、もう、そういう時代ではありません。あまりの忙しさのために、心が折れ曲がることなく、皆さんが医療に関わることを決心した時の生来の優しい心を保ちながら当院の運営に協働して行けるよう、何らかの提案ができればと思っています。

これまでの一診療科の医師とは違った視点が求められる副院長として具体的に何をすべきなのか正直なところ模索中です。根底にある思いは、それぞれの職種が自尊心を持ちながら、他職種のことも理解し、職員が誇りとやりがいを感じられる、そんな高知医療センターに益々なること、それが高知県のためだと思っています。私も微力ながらこの職責を果たして参る所存ですので、多くの方々のご協力、ご助言をお願い申し上げます。

で 挨拶

医療局長

山本 克人

Katsuhito Yamamoto



いつも高知医療センターに対して格別のご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。このたび、本年4月1日をもって、福井康雄前医療局長の後任として医療局長を拝命いたしましたので、一言ご挨拶申し上げます。

私は、これまでの4年間は循環器病センター長として、当院の循環器分野の発展のための仕事をして参りました。もちろん、若い頃から循環器内科医としてずっと循環器病とかかわっており、今後もそれは変わらないのですが、これからは診療科の枠を超えて常勤医約150名、専修医約15名、研修医約30名、非常勤医約40名の計約235名の医師の集団である医療局をまとめ、前進させていくという重責を負うこととなりました。幸い歴代の医療局長がしっかりと基礎を固めてくださっており、これをもとに発展させ、充実した医療局となるよう邁進したいと考えております。

さて、昨今医師の過重労働が話題となっており、先日当院での状況も新聞等で報道されたことは記憶に新しいことと思います。上記のように、当院には多数の医師が在籍はしておりますが、仕事量に比し医師数が少ない診療科も少なからず存在します。また、救急や手術などが重なりますと医師はどうしても労働時間が長くなり、なかなか休みの取りにくいこともしばしばです。この過重労働の問題に対し、昨年度から病院とし

ても働き方改革の推進を掲げ、ワークライフバランスを大切にするよう取り組んではおりますが、まだまだ道半ばにあるかと考えております。今回、新しい役職である医療局参事(働き方改革・局内調整担当)に中村敏夫医師に就いていただくこととなりました。お互い協力し、また各診療科の意向を聞きながら、この問題に医療局としても取り組んでいきたいと考えております。

先ほども申しましたが、高知医療センター医療局は、ベテランの高度な技術・知識をもった医師から初期研修医に至るまで、さまざまな医師の集合体です。ベテランの医師においては、病院の顔としてさらに高度な医療を提供していただくとともに、若い医師を教育し育て上げる使命も持ち合わせています。それに対し、若い医師においては、先輩方から医療技術を学び吸収して、患者さんとのコミュニケーションが充分とれるようなより良い人間関係を学ぶことが必要です。このように、立場や経験年数あるいは診療科によっても各医師が求められることは様々です。高知医療センターのすべての医師が、より良い環境で求められる仕事が充分に行え、あるいは若い医師には成長してもらい、地域の先生方の期待に充分応えられるよう努力してまいりますので、今後ともご支援ご指導のほど何とぞよろしくお願いいたします。



医療局



研修医室

就任の



医療技術局長

谷内 亮水

Ryosui Taniuchi

平成30年4月1日に医療技術局長に就任しました。就任にあたりご挨拶申し上げます。

まず、医療技術局について簡単に説明いたします。医療技術局は、「高知医療センターの医療方針にのっとり、患者さんの人間性を尊重することを基盤に、患者さん中心に立った医療技術を提供する。医療技術局の職員は、互いの専門技術を尊重し、互いが協働連携して医療技術を提供する統合体組織としての局をめざす。」を理念としており、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、臨床工学技士が日々の診療に技術を提供しています。

開院時の平成17年には8科、61名でスタートした医療技術局は、高度救急医療への対応、ハイブリット手術室の稼働やがんサポートセンターの開設によるPET-CTや高精度放射線治療装置の導入により、11科112名に増員し、進歩し続ける医療に対応しています。訓練室を持たないベッドサイドリハをうたい文句で4名の理学療法士で始まったリハ技術科は、SCUの開設、超早期リハやベットサイドでの早期離床への対応などにより21名に増員し、救命救急センターや術後早期のリハビリテーションなどを実施し、早く地域の先生方に逆紹介できるように頑張っています。

高度な医療に対応するために専門・認定資格取得を目指しています。現在、診療放射線技師関係では19資格、臨床検査技師関係では24資格、リハビリテー

ション技師関係では9資格、臨床工学技士関係では24資格を取得しています。

私は昭和55年に旧高知市立市民病院に就職し、市立市民病院最後の院長でありました大脇嶺先生に心エコーを叩き込まれ、また、学会発表をすることの重要性、論文に残すことの大切さを教えていただきました。その教えを忠実に実行し、また、後輩に対しても指導してきました。その蓄積は、175の学会発表と122の論文発表に至っており、それが自信となっています。これからも診療の先生方、紹介していただける地域の先生方に信頼していただける臨床検査技師を目指して精進していけたらなと思っています。

医療技術局スタッフ一同、地域の医療機関の皆さま方に信頼していただけるような技術提供ができるように努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

略歴

【学歴】

昭和55年 高知学園短期大学衛生技術科卒業

【職歴】

昭和55年 高知市立市民病院臨床病理検査科就職

平成9年 高知市立市民病院臨床検査技術室主任

平成17年 高知医療センター医療技術局部長

平成22年 高知医療センター医療技術局次長

平成30年 高知医療センター医療技術局長

平成6年～平成16年 四国医療工学専門学校 非常勤講師

平成8年～平成19年 高知福祉専門学校 非常勤講師

平成15年～現在 高知学園短期大学 非常勤講師

【免許・資格】

臨床検査技師免許

臨床工学技士免許

日本超音波医学会認定

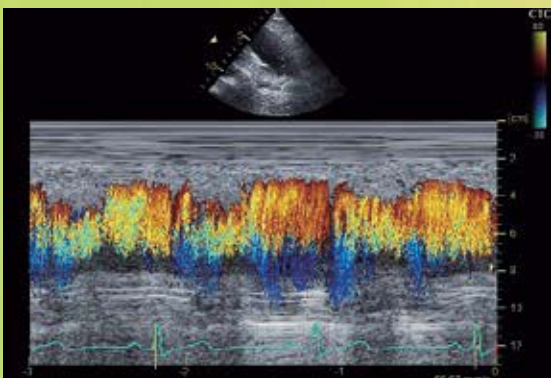
超音波検査士

(循環器領域・血管領域)

谷内家のアイドル 三毛猫りんちゃんです★



動脈管開存症カラーMモード



で 挨拶

薬剤局長

田中 聡

Satoshi Tanaka



この度、平成30年4月1日付で高知医療センター(以下、当院)の薬剤局長(第5代)を拝命いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

当院では、それぞれの専門職が、互いに平等に力を発揮できるよう、医療局、看護局、薬剤局、栄養局、医療技術局、事務局の6局の組織体制を編成しています。その中で薬剤局の役割は、医薬品に関する正しい知識を医師や患者さんに提供し、医薬品の適正使用や安全管理に責任をもつことです。平成17年3月の開院以来、「“見える臨床薬剤師”を目指して、より信頼され、より親しまれる薬学ケアサービスを実践する」を理念にかかげて薬剤業務に取り組んでまいりました。この間、歴代薬剤局長のもと、調剤はもちろんのこと、薬剤管理指導、感染対策・栄養サポート・緩和ケア等をはじめとするチーム医療への参画および救急医療支援など、医療における薬剤師の使命を果たし、医療現場での成果を残してまいりました(詳細は当院ホームページをご参照ください)。中でも、当院の救命救急センターICUでの薬剤師の取組みがエビデンスとして採用され(第310回中央社会保険医療協議会総会資料)、平成28年度の診療報酬改定において「病棟薬剤業務実施加算2」の新設に繋がったことは大きな成果のひとつであったと考えています。

今年度は、開院14年目となりますが、この間に医療を取り巻く環境は大きく変化し、薬剤師の役割も少なからず変化してきました。開院当初は調剤や服薬指導などの“情報提供業務”が中心でしたが、2014年6月施行の改正薬剤師法で、それに加えて“必要な薬学的知見に基づく指導”が義務付けられ、それまで薬中心であった“対物業務”から、より患者さんに向き合う“対人業務”への転換が求められました。同年に公表された日本学術会議からの「薬剤師の職能将来像と社会貢献」と題した提言^{*1}によれば、医療の場における薬剤師の新たな機能として、薬物治療、とりわけ

個々の患者さんに適した処方提案や医薬品の安全確保、治療計画立案への参加や副作用防止などのいわゆる“チーム医療”への貢献が期待されるとしています。

国が地域の高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するために、2025年を目処に構築を目指している「地域包括ケアシステム」においても、多職種連携が医療や生活支援での成功のカギを握る要素として位置付けられていますが、その医療の部分の質の向上や効率化にも、チーム医療は重要な要素の一つとなっています。

当院の島田病院長からも課題として示されました「高度急性期医療」と「高齢者医療」の両立に向けて、スタッフ全員の協力のもと最善の医療を提供できるよう、私たち薬剤局も従来の調剤、医薬品の供給と情報提供に加えて、チーム医療を基盤として職責を果たし、地域の皆さまの期待に応えていきたいと考えています。

昨年度、薬剤局の理念が“臨床薬剤師”として、人に社会に貢献できる薬学ケアサービスを実践する」と改められました。私たちはこの新理念のもと、高知県の基幹病院の薬剤局として、引き続き患者さんが安心・安全で納得できる質の高い医療に貢献し、地域の皆さまに薬剤師としての信頼をいただけますよう、薬剤局職員一丸となってより一層の努力をしてまいりたいと考えています。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



^{*1} 日本学術会議：提言 薬剤師の職能将来像と社会貢献、2014年1月20日。
<http://www.sci.go.jp/ia/info/kohvo/pdf/kohvo-22-t184-1.pdf>

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
6月	1	金	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)			
			内容	フィジカルアセスメント1 ※定員に達しました	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	8:30～16:30	対象	新人看護師(5名)
			講師	高知医療センター 急性・重症患者看護専門看護師		
8	金	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)				
		内容	与薬技術3 ※定員に達しました	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3	
		時間	14:30～17:00	対象	新人看護師(10名)	
		講師	高知医療センター 認定輸血検査技師・教育担当者			
21	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要) ※申込期限:6月11日(月)				
		内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室	
		時間	9:00～12:00	対象	看護師(3名)	
		講師	高知医療センター BLSインストラクター			
29	金	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)				
		内容	高齢者ケア1	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3	
		時間	9:00～10:30	対象	新人看護師(15名)	
		講師	高知県立大学 教員			
7月	6	金	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)			
			内容	医療安全2	場所	高知医療センター 1階 研修室2・3
			時間	14:30～17:00	対象	新人看護師(10名)
			講師	高知医療センター 医療安全管理者・教育担当者		
18	水	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要) ※申込期限:7月13日(金)				
		内容	心のケア2 ①せん妄状態の患者の看護	場所	高知医療センター 1階 研修室1・2	
		時間	17:30～19:00	対象	看護師(20名)	
		講師	高知医療センター 精神科認定看護師 岡村 邦弘			
19	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要) ※申込期限:7月9日(月)				
		内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室	
		時間	9:00～12:00	対象	看護師(3名)	
		講師	高知医療センター BLSインストラクター			
【高知医療センター 看護局集合研修・新人看護師研修 他施設公開研修お申込み】 申込用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766 お問合せ:高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・藤本・川田) TEL:088(837)3000(代)						
28 29	土 日	高知医療センター がんサポートセンター主催 他施設公開研修(参加費無料・申込要)※別途資料代1,000円 申込期限:6月30日(土)				
		内容	2018年 ELNEC-Jコアカリキュラム 看護師教育プログラム	場所	高知医療センター がんサポートセンター 4階 研修室	
		時間	28日 9:00～17:55 29日 9:00～17:35	対象	看護師(30名) ※看護師経験3年以上	
		※両日とも参加できる方に限ります。定員に達し次第、締め切らせていただきます。 お問合せ:高知医療センター 緩和ケアチーム 看護師 明神 友紀 TEL:088(837)3000(代)				

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

新図書館複合施設「オーテピア」が7月に開館予定です。図書館はもちろんですが、オーテピア5階の「高知みらい科学館」に行きたいと思っています。小学5年のころ、足摺岬で見た満点の星空は吸い込まれそうで怖かったのを今でも覚えています。人工的な明かりで小さな星が見えない高知市の星空をプラネタリウムで見られるのを楽しみにしています。

現在、地域医療連携室で前方業務は4名で業務しています。日々の仕事の中でいつの間にか気がつかなくなっていることはないか、いつも見直せるように頑張っていきたいと思います。(地域医療連携室 澤田)



平成30年6月1日発行
にじ6月号(第152号)
毎月発行
編集者:広報委員会
発行者:島田 安博
印刷:株式会社 高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp